

# ごあいさつ

皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は城北信用金庫に格別のご高配を賜り、まことにありがとうございます。

本年も、当金庫についてのご理解を一層深めていただくために、このディスクロージャー誌を作成いたしました。ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

## 経営環境認識および令和6年度の業績概況 業務純益は58億円、経常利益は59億円を計上いたしました

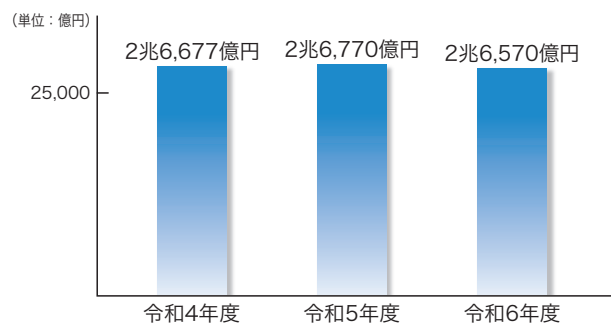
令和6年度の経済環境は、円安が大手企業の業績を押し上げたこともあって景気回復が期待され、7月には日経平均株価が終値ベースで過去最高値をつけました。堅調なインバウンド需要などを背景に、全体としては緩やかな回復基調が続いていますが、足元では、深刻な人手不足、人件費・原材料価格を含むコストの高騰、トランプ関税の影響など、企業収益を圧迫する要因が複数生じており、地域経済の先行きはなお不透明な状況です。

このようななか当金庫では、地域の将来の展望に少しでも貢献できますよう、良質で利便性の高い商品・サービスの開発とご提供に努めつつ、経営基盤の強化を進めてまいりました。

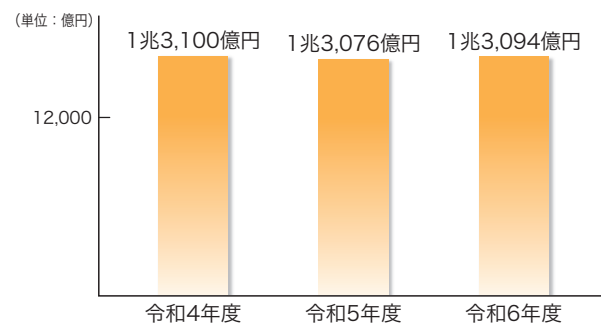
令和6年度決算におきましては、期末の預積金残高2兆6,570億円、貸出金残高1兆3,094億円となりました。損益につきましては、機器入替・店舗建替、預金利回りの上昇などコスト増加要因もありましたが、貸出金利息や役務収益など売上に相当する項目が増収となったことから、業務純益58億円、経常利益59億円と、期初の計画を上回る利益を計上いたしました。なお、普通出資に対する配当率は2%とさせていただきます。

年度を通じまして、皆さまからさまざまなお力添えを賜りましたことに深く感謝申し上げます。

### 預積金残高の推移



### 貸出金残高の推移



## 令和6年度の取り組み

### 第7次中期経営計画の最終年度として、幅広く「BREAKTHROUGH」に挑戦しました

前中計（令和4～6年度・第7次中期経営計画「BREAKTHROUGH コンサルティング機能の充実に向けて」）では、お客さまが抱える課題を幅広くキャッチし、解決に向けて尽力し、結果にもご満足をいただくためには、金庫として一層の機能強化が必要であるとの認識のもと、ブレイクスルー（障壁の突破）を合言葉に、業務全般の変革を進めてまいりました。コンサルティング子会社「JSパートナーズ株式会社」の稼働、規制緩和による業務範囲の拡大に対応した地域商社業務の認可取得、お客さまとのコミュニケーションを重視したカウンターレスの店舗づくりなど、新たな取り組みを複数始動させているところです。

前中計の最終年度となった令和6年度も、お客さまからのご相談への対応を最優先としつつ、私たち自身のブレイクスルーにも幅広くチャレンジいたしました。主な取り組みは次の通りです。

### ●ソリューション提供における取り組み

地域商社業務の認可取得に伴い、新規事業として事業者さま向けのサービス「トラスト・リンケージ」を開発・リリースいたしました。これは、コンサルティング子会社であるJSパートナーズ株式会社が、地域商社としてお客さまの取引の間に入り、「商材の流れ」と「資金繰り」を包括的にサポートするスキームです。資金繰りの改善とともに、発注のDX化など取引の円滑化もお手伝いするトータルパッケージとなっております。

個人のお客さま向けサービスでは、資産承継の分野で機能強化の準備を進めました。これまでの「シニア向けライフサポート『結』」での実績を踏まえ、今後より一層のサービス向上を図りたいと考えております。

### ●コミュニケーション強化に向けた取り組み

店舗につきましては、ブランチインブランチ方式で効率化を図る一方、リニューアルの際などには新しい試みも取り入れております。令和6年8月、王子駅近くにオープンした王子営業部王子北本通り出張所（ATMコーナー）では、一般社団法人東京北区観光協会とのタイアップにより、最先端の無人決済システムを導入した「飛鳥山おみやげ館『SMART SHOP』」を併設しており、地域の魅力の発信拠点となっております。

他方、パブリックリレーションの取り組みでは、昨夏の新紙幣発行に伴い、新一万円札の肖像となった渋沢栄一翁にちなんだ地域プロモーションを企画し、店頭、WEB、自治体や地元商店街と連携したイベントなど多面的に展開いたしました。

また、地域密着型のインターネットラジオ局「しぶさわくんFM」では、年度を通じて順調にコンテンツを増やすとともに、音声配信にとどまらず、フェスや公開収録など番組にまつわるリアルイベントも開催いたしました。今後とも、地域の皆さんをつなぎつつ、新たなカルチャーを巻き起こしていければと考えております。

取り組みの詳細は、6ページ以降にも記載しておりますのでぜひご覧ください。



## 今後の課題と展望、第8次中期経営計画について

### 環境変化に柔軟に対応しつつ「地域のプラットフォーマー」実現を加速いたします

さて、当金庫ではこれまでの中期経営計画を通じて、『金融・非金融トータルでの価値の創造・提供』を起点に、地域に活力の好循環を創出するという長期ビジョンと、長期ビジョン達成に向け目指す姿は「地域のプラットフォーマー」であることを示し、役職員の意識共有を図ってまいりました。

これまでの取り組みには手ごたえを感じておりますが、金利のある世界の復活をはじめ、経営環境は大きく変化をしております。超高齢社会の到来、事業所の減少、AIの加速度的な社会実装、デジタル化、キャッシュレス化等々、変化に柔軟に対応しつつ長期ビジョン達成を目指すうえでは、態勢整備に一層のスピードアップが求められます。

そこで、今年度から取り組む第8次中期経営計画では、「**Boost! プラットフォーマー実現への加速**」をスローガンといたしました。

- 地域の皆さまとの間に、何でも相談してくださるような懇意な関係を数多く築くこと。
- お客さまの課題やニーズを深く理解し、それらを踏まえた質の高い独自サービスを、一つでも多く開発し、最適な組み合わせでご提供すること。
- 地域でのつながりをもとに、さまざまな角度から地域活性化に取り組むこと。

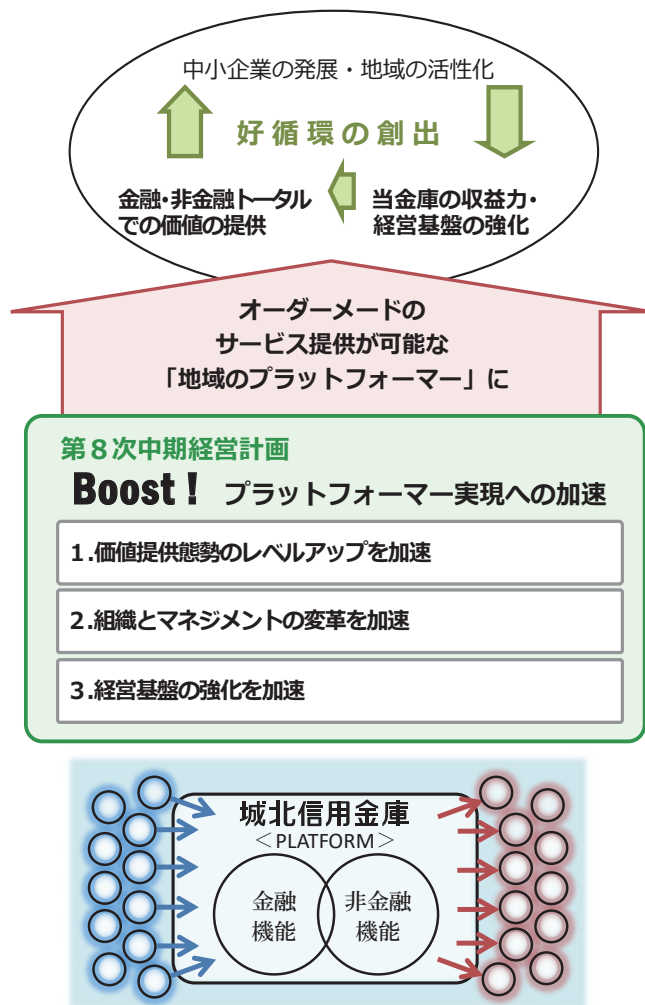
こうした活動を、より高いレベルで実行できますよう、サービスラインアップの充実策や、業務フローの効率化、職員の多能化・スキル向上策など、多面的に取り組んでまいります。

さらに、経営基盤の強化に向けて下記の課題にも継続的に取り組んでまいります。

- 会員の皆さまの利益に資するよう、収益力の向上と自己資本の充実を図ります。
- 統合的リスク管理態勢、AML/CFT/CPF態勢、コンプライアンス態勢の維持・強化に努めます。
- 顧客保護等管理態勢の強化を図り、苦情・相談を活かした業務改善に努めます。
- より多くの会員・利用者の皆さまの声が経営に反映される態勢の構築を目指します。

当金庫はこれからも、会員の皆さまはじめ地域の皆さまのための信用金庫として、さらなるサービスの向上と機能強化に全力を尽くしてまいります。

より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



令和7年7月

理事長 大前 孝太郎